



## 悲願の全種目完走

フォーミュラ・フレンズ・オブ・エヌ・アイ・ティー  
Formula Friends of N.I.T  
<http://ffnit.koyukai.com/>



### Presentation プレゼンテーション

マシン名: 秋桜 (cosmos)

今年度車両は「正常進化」をコンセプトに車両製作を行いました。ホイールサイズは2013年度と同様に10インチを採用し、ジオメトリーの見直しとデータの蓄積に力を入れました。ダンパーユニットはリンクレス・アウトボードとし、シンプルな機構で軽量な足まわりをめざしました。

フレームは、軽量かつ低ヨー慣性モーメントであると共に整備性の向上にも取り組みました。大会ではトラブルもなく全種目完走を果たし、高い信頼性を証明することができました。フレームの構造面での進化に加え、マシンをより定量的に評価できるように、MoTeCのようにデータロギングシステムを搭載しました。このシステムの導入により今年度車両から得られたデータを来年度への設計に生かしたいと考えております。また、これらの開発から「感覚的に良くなった」ではなく、定量的にどのように良くなったのかを確認することができるようになり、チームの設計ノウハウを今後も発展させていくために必要な基盤を作ることができたのではないかと感じております。

### Participation report 参戦レポート

初日にプレゼンテーション審査が行われ、担当するチームメンバーは資料の最終確認に追われていました。その他のチームメンバーは、2日目に行われる車検、コスト及びデザイン審査の準備を行いました。車検では、車検官の指摘から、再製作を余儀なくされた部品も数ヶ所ありましたが、チームメンバーの迅速な対応で車検に合格することができました。静的審査では、昨年度と比べて全体的に点数は減りましたが、コスト審査でのアキュラシーを獲得することができ、その点では進歩することができました。

3日目に行われた動的審査では、午前中にアクセルレーション、スキッドパッドを走行しました。2つの審査とも昨年度に比べてタイムを短縮し、点数を向上することができました。しかし、午後に行われたオートクロスは弊チームのタイムからコンマ数秒速い他大学が多く、順位は思うように上がらず、結果的にエンデュランスのランオーダーはBグループとなりました。

そのような中、最終審査となるエンデュランスでは、豪雨に見舞われ、審査開始が大幅に遅れました。ようやく雨が止み、スタート直後には路面のいたるところに水溜りができ、非常に滑りやすい状態でしたが、メンバー一同が見守る中、ふたりのドライバーが無事に完走を果たしました。路面状況が悪く、タイムは思うように上がりませんが、悪条件の中で完走したドライバー含め、メンバー一同は達成感に満ち溢れていました。来年度は、今年度よりも高い順位を獲得できるように努力して参る所存です。



### 今回の総合結果・部門賞

●総合23位 ●日本自動車工業会会長賞

### Profile チーム紹介・今までの活動

日本工業大学学生フォーミュラチームは2009年に発足し、今年度の大会で5回目の出場となります。学部1~3年生が中心となって活動しており、工業大学の強みを生かすように車両製作を行っております。今年度は、全種目完走を目標として活動して参りました。

### Team-member チームメンバー

#### 稲毛 基大 (CP)

中野 道王 (FA)、安原 鋭幸 (FA)、田口 直樹、桑原 孝有、土屋 俊一、新井 佑希、酒井 達也、福田 真教、宮内 崇成、高澤 悟、関口 裕紀、渡辺 将源、堀口 誠矢、村田 旭洋、藤沼 美波、野口 柁平、佐藤 恒輝、手塚 大晴、布施 拓馬、舟藤 宗平、松本 大河、遊佐 涼太

### Sponsors スポンサーリスト

日本工業大学工友会、ヤマハ発動機、BODY SHOP MASUDA、ジュニアモーターパークquick羽生、はらっパーク宮代、RSワタナベ、ダウ化工、NITE埼玉産学交流会(事務局)、日信工業、ソリッドワークスジャパン、(高山商事、AVO/MoTeC Japan、ウェストレーシングカーズ、富士精密、和光ケミカル、SEKI、レイズ、NTN、エフ・シー・シー、シルクマスター、ドクスタイル、協永産業、栄鋼管、協和工業、日エテクノ、アイ・アール・エス、グローバルエナジー、ファーストモルディング、クリヤマ、忍機工、ガルダ、オーテック鈴鹿、テラダ、須藤 秀一、高田歯科、伊藤動物病院、萩原建設、阿部技研、甘楽 一男、中村建設、プラスミュー、PLUS-PLASTICS、大島オート、VI-grade、トヨタレンタリース